

問題一

- 問一 A 既得 B 惰性 C 義憤 D 規範 E 遂行

問二 優位に立って人々に介入し、意に沿うように強いる体制的な力。(二九字)

問三 権力への抵抗は、その意味や効果の有無とは無関係に、自然に生じてしまうものだから。(四〇字)

問四 哲学は既存の事柄を自明視せず、実効性とも無縁に、概念を鍛え上げて世界の見方を変える営みだということ。(五〇字)

問題二

問い一 ア 人間の本性

イ 後日

ウ 発言の手立て

エ 反対

問い二 源平の盛衰に従って、強者には反感を、弱者には同情を抱くこと。(三〇字)

問い三 政府の要職にある者は、社会には均衡を保とうとする力があることをわきまえて、多様な言論活動を保障するべきであるということ。(六〇字)

問題三

アイルランドで起きた民族語から英語への言語交替は、英語に将来性を見出す国民の願望によるものである。近年日本でも同様の願望に基づきバイリンガル化を目指す英語教育が志向されているが、日本語は安泰だと思われる。だが日本でも英語を使う頻度が高まり、英語への言語交替が起きる可能性は十分考えられる。とすれば、バイリンガル化による民族語の復興を目指す今のアイルランドの人々の言葉を、私たちは傾聴すべきである。(二〇〇字)